

PRESS RELEASE (2016/07/13)

**スーパーコンピュータ「京」が Graph500 で世界第 1 位を獲得
—ビッグデータの処理で重要となるグラフ解析で最高の評価—**

九州大学と東京工業大学、理化学研究所、スペインのバルセロナ・スーパーコンピューティング・センター、富士通株式会社による国際共同研究グループは、2016年6月に公開された最新のビッグデータ処理（大規模グラフ解析）に関するスーパーコンピュータの国際的な性能ランキングである Graph500 において、スーパーコンピュータ「京（けい）」^[1]による解析結果で、2015年11月に続き3期連続（通算4期）で第1位を獲得しました。

大規模グラフ解析の性能は、大規模かつ複雑なデータ処理が求められるビッグデータの解析において重要となるもので、今回のランキング結果は、「京」がビッグデータ解析に関する高い能力を有することを実証するものです。

本研究の一部は、科学技術振興機構（JST）戦略的創造研究推進事業 GREST「ポストペタスケール高性能計算に資するシステムソフトウェア技術の創出」（研究総括：佐藤 三久 理研計算科学研究機構）における研究課題「ポストペタスケールシステムにおける超大規模グラフ最適化基盤」（研究代表者：藤澤 克樹 九州大学、拠点代表者：鈴木 豊太郎 バルセロナ・スーパーコンピューティング・センター）および「ビッグデータ統合利活用のための次世代基盤技術の創出・体系化」（研究総括：喜連川 優 国立情報学研究所）における研究課題「EBD：次世代の年ヨッタバイト処理に向けたエクストリームビッグデータの基盤技術」（研究代表者：松岡 聡 東京工業大学）の一環として行われました。

順位	システム名称	設置場所	ベンダー	国名	ノード ^[5] 数	プログラムスケール ^[6]	GTEPS ^[4]
1	京	理研 計算科学研究機構	富士通	日	82,944	40	38,621
2	神威太湖之光	無錫国立スーパーコンピューティングセンター	NRCPC	中	40,768	40	23,756
3	Sequoia	ローレンス・リバモア研究所	IBM	米	98,304	41	23,751
4	Mira	アルゴンヌ研究所	IBM	米	49,152	40	14,982
5	JUQUEEN	ユーリッヒ研究所	IBM	独	16,384	38	5,848
6	Fermi	CINECA	IBM	伊	8,192	37	2,567
7	天河2号	国防科学技術大学	NUDT	中	8,192	36	2,061
8	Turing	GENCI	IBM	仏	4,096	36	1,427
8	Blue Joule	ダーズベリー研究所	IBM	英	4,096	36	1,427
8	DIRAC	エジンバラ大学	IBM	英	4,096	36	1,427
8	Zumbrota	EDF 社	IBM	仏	4,096	36	1,427
8	Avoca	ビクトリア州生命科学計算イニシアティブ	IBM	豪	4,096	36	1,427

2016年6月20日に公開された Graph500 上位 10 位 (http://www.graph500.org/results_jun_2016)

【お問い合わせ】 九州大学マス・フォア・インダストリ研究所 教授 藤澤 克樹
TEL: 092-802-4402 FAX: 092-802-4405 (7月14日(木)以降)
Email: fujisawa@imi.kyushu-u.ac.jp (常時)

1. Graph500 とは

近年活発に行われるようになってきた実社会における複雑な現象の分析では、多くの場合、分析対象は大規模なグラフ（節と枝によるデータ間の関連性を示したもの）として表現され、それに対するコンピュータによる高速な解析（グラフ解析）が必要とされています。例えば、インターネット上のソーシャルサービスなどでは、「誰が誰とつながっているか」といった関連性のある大量のデータを解析するときにグラフ解析が使われます。また、サイバーセキュリティや金融取引の安全性担保のような社会的課題に加えて、脳神経科学における神経機能の解析やタンパク質の相互作用分析などの科学分野においてもグラフ解析は用いられ、応用範囲が大きく広がっています。こうしたグラフ解析の性能を競うのが、2010 年から開始されたスパコンランキング「Graph500」です。

規則的な行列演算である連立一次方程式を解く計算速度（LINPACK^[2]）でスーパーコンピュータを評価する TOP500^[3] においては、「京」は 2011 年（6 月、11 月）に第 1 位、その後、2016 年 6 月 20 日に公表された最新のランキングでも第 5 位につけています。一方、Graph500 ではグラフの幅優先探索（1 秒間にグラフのたどった枝の数（Traversed Edges Per Second; TEPS^[4]））という複雑な計算を行う速度で評価されており、計算速度だけでなく、アルゴリズムやプログラムを含めた総合的な能力が求められます。

今回 Graph500 の測定に使われたのは、「京」が持つ 88,128 台のノード^[5]の内の 82,944 台で、約 1 兆個の頂点を持ち 16 兆個の枝から成るプロブレムスケール^[6]の大規模グラフに対する幅優先探索問題を 0.45 秒で解くことに成功しました。ベンチマークのスコ

アは 38,621GTEPS（ギガテップス）です。Graph500 第 1 位獲得は、「京」が科学技術計算でよく使われる規則的な行列演算だけでなく、不規則な計算が大半を占めるグラフ解析においても高い能力を有していることを実証したものであり、幅広い分野のアプリケーションに対応できる「京」の汎用性の高さを示すものです。また、それと同時に、高いハードウェアの性能を最大限に活用できる研究チームの高度なソフトウェア技術を示すものと言えます。「京」は、国際共同研究グループによる「ポストペタスケールシステムにおける超大規模グラフ最適化基盤プロジェクト」および「EBD：次世代の年ヨッタバイト処理に向けたエクストリームビッグデータの基盤技術」の 2 つの研究プロジェクトによってアルゴリズムおよびプログラムの開発が行われ、2014 年 6 月に 17,977GTEPS の性能を達成し第 1 位、また「京」のシステム全体を効率良く利用可能にするアルゴリズムの改良が行われ 2 倍近く性能を向上させ、2015 年 7 月に 38,621GTEPS を達成し第 1 位でした。そして今回のランキングでもこの記録は神威太湖之光等の新しいシステムに比べても大幅に高いスコアであり、世界第 1 位を 3 期連続で獲得しました。

2. 今後の展望

大規模グラフ解析においては、アルゴリズムおよびプログラムの開発・実装によって今回のように性能が飛躍的に向上する可能性を示しており、

研究グループでは今後も更なる性能向上を目指していきます。また、上記で述べた実社会の課題解決および科学分野の基盤技術へ貢献すべく、スーパーコンピュータ上でさまざまな大規模グラフ解析アルゴリズムおよびプログラムを研究開発していきます。

3. 関連サイト

- Graph500 の詳細について（英語） <http://www.graph500.org/>

補足説明

[1] スーパーコンピュータ「京（けい）」

文部科学省が推進する「革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ (HPCI) の構築」プログラムの中核システムとして、理研と富士通が共同で開発を行い、2012 年に共用を開始した計算速度 10 ペタフロップス級のスーパーコンピュータ。「京（けい）」は理研の登録商標で、10 ペタ（10 の 16 乗）を表す万進法の単位であるとともに、この漢字の本義が大きな門を表すことを踏まえ、「計算科学の新たな門」という期待も込められている。

[2] LINPACK

米国のテネシー大学の J. Dongarra 博士によって開発された規則的な行列計算による連立一次方程式の解法プログラムで、TOP500 リストを作成するために用いるベンチマーク・プログラム。ハードウェアのピーク性能に近い性能を出しやすく、その計算は単純だが、応用範囲が広い。

[3] TOP500

TOP500 は、世界で最も高速なコンピュータシステムの上位 500 位までを定期的にランク付けし、評価するプロジェクト。1993 年に発足し、スーパーコンピュータのリストを年 2 回発表している。

[4] TEPS (Traversed Edges Per Second)

Graph500 ベンチマークの実行速度をあらわすスコア。Graph500 ベンチマークでは与えられたグラフの頂点とそれをつなぐ枝を処理する。Graph500 におけるコンピュータの速度は 1 秒間あたりに調べ上げた枝の数として定義されている。G (ギガ) は 10^9 (=十億) 倍を表す接頭辞。

[5] ノード

スーパーコンピュータにおけるオペレーティングシステム (OS) が動作できる最小の計算資源の単位。「京」の場合は、ひとつの CPU (中央演算装置)、ひとつの ICC (インターコネクトコントローラ)、および 16GB のメモリから構成される。

[6] プロブレムスケール

Graph500 ベンチマークが計算する問題の規模をあらわす数値。グラフの頂点数に関連した数値であり、プロブレムスケール 40 の場合は 2 の 40 乗 (約 1 兆) の数の頂点から構成されるグラフを処理することを意味する。

機関窓口・問い合わせ先

<機関窓口>

九州大学広報室

TEL : 092-802-2130 FAX:092-802-2139

Email : koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

国立大学法人東京工業大学 広報センター

TEL : 03-5734-2975 FAX : 03-5734-3661

Email : media@jim.titech.ac.jp

理化学研究所 広報室 報道担当

TEL : 048-467-9272 FAX : 048-462-4715

Email : ex-press@riken.jp

富士通株式会社 富士通コンタクトライン (総合窓口)

TEL : 0120-933-200

科学技術振興機構 広報課

TEL : 03-5214-8404 FAX : 03-5214-8432

Email : jstkoho@jst.go.jp